

Rotary

国際
R
I

ジェニファー・ジョーンズ会長

2022-2023年度
会長 西村 敏信
幹事 茶谷 勝

出席報告

本日出席	14人
欠席	7人
出席率	66.66%
第3326回のメイクアップ	3人
第3326回の出席率	47.61%→61.90%

元会長あいさつ 青山圭一君



秋晴れの気持ち良い天気が続いている。最新のロータリー会報には旬の小旅行の様子が載っている。皆さん、写真から楽しそうにおられるのが見てとれ、とても羨ましい。一応、医療関係の仕事に従事しているため、飲食の席への参加は自

重している、ご理解願いたい。コロナの感染状況は全国的に増えている。私のクリニックを受診した方で感染が判明したのは8月、週30人以上いた。11月に入ってから週に10人は超えていない感じなので、明らかな上昇カーブには入っていない。当院では今日からBA4・5対応のワクチンを使用するようになっていく。日本全国だと5人に1人が感染しているが、感染してからのワクチン接種は、抗体が下がってくる3カ月後ぐらいがよい。皆さん、引き続き気を付けてほしい。

ニコボックス報告

愛宕彰君

先日の旬の小旅行で大勢のメンバーに多大なるご迷惑をかけた。誠に申し訳ありませんでした。これに懲りずよろしくご指導お願いします。



茜色の朝焼けを強調した構図

立山連峰の稜線が三分割の線上にある

卓話「新聞づくりと写真撮影の基本 ～編集・制作現場から」



小池
宏君

卓話は小池宏君が「新聞づくりと写真撮影の基本～編集・制作現場から」の題で担当した。ここ最近の新聞の実物を広げながら、取材から新聞が各戸に届くまでのプロセス、基本的な新聞のつくりや構造、見出しを付けるポイントについて説明した。写真撮影の基本では「三分割法」と呼ばれる構図を紹介した。

新聞を1面から観察すると新たな発見がある。新聞の年齢である紙齢もその一つ。紙面左上に載っており、本日(11日付)は48825号だ。大きな節目の5万号まであと1175号。計算上は2026年3月に達成する。5万号は特別紙面になるので、保存をお願いします。

新聞が各戸に届くまでのプロセスを説明する。
■記者→出稿メモ提出→取材
■各部デスク出稿メモ集約→編集会議(掲載方針決定、記事振り分け)
■記者→記事・写真出稿→報道本部デスク(チェック、手直し)
■報道本部デスク(完全原稿)→編制本部デスク・面担→大組→赤字手直し→降版→印刷
■トラック陸送→新聞販売店→各戸

上記のようなルートになるが、デスクとは取材経験豊富でベテランの部長・部次長クラスを指し、原稿をチェックする。「机」の意味はない。

見出しは5W1Hから重要な要素を抜き出し、8～11本の字数で付ける。主見出しと補足する脇見出しの2本スタイルが基本となる。

写真撮影では、三分割構図をマスターしてほしい。縦横それぞれ3分の1の所で2本線を引き、画面を9分割する。この2本の線上か交点に主要被写体を配すると、構図が安定する。

← 三分割構図の例

出席報告

本日出席	12人
欠席	9人
出席率	57.14%
第3327回のメイクアップ	2人
第3327回の出席率	66.66%→76.19%

会長あいさつ

西村敏信会長



先日、商工会議所が主催している水曜会で、魚津の水が全国的に見て非常においしい、という内容の卓話を聞いたので紹介する。富山大学の助教が魚津の水の学術的な評価を紹介した。魚津を取り巻く深海から北アルプスまでの急峻な地

形は世界に類がなく、おいしい水の要因になっているとのことだ。水といい、海の幸といい、われわれは当たり前にはいただいております、果報者だと改めて思った。

本日は福村RLI委員長に卓話をさせていただく。ロータリーや、RLIの取り組みを真剣に考えるきっかけにしてほしい。目から鱗が出るはずですよ。

ニコボックス報告

福村智美様 本日はこのような機会をいただき、誠にありがとうございます

西村敏信君 福村RLI委員長様、本日はありがとうございます

川岸芳雄君 福村様、ようこそ魚津へ。本日はよろしく願います

委員会・ガバナー補佐 報告

岩崎インターアクト委員長

歳末助け合い募金活動を12月15日、魚津工業高校インターアクトクラブと例年通りアップルヒルとサンプラザで行う。スタート時間が16時50分からということで早いが途中からの参加でも大丈夫なので、よろしく願います。

川岸ガバナー補佐

先日、宇奈月RCを訪問した際、大橋ガバナーノミニと酒を酌み交わしながら、いろいろ話した。大橋さんの会社に米山奨学生だったネパール人が勤めており、年忘れ家族会に同じネパール出身のスッパ・ソニさんと一緒に招待したい。

ゲスト卓話

「RLIの意義について」

国際ロータリー2610地区

RLI委員会委員長 福村智美氏



ゲスト卓話は、国際ロータリー2610地区RLI委員長の福村智美(さとみ)氏が「RLI参加の意義について」の題で担当した。ロータリーの人材育成の場であるRLIの研修などを説明した。結びに福村氏は世界的に有名な絵本「葉っぱのフレディ」の一節を朗読。変化を怖がるのが常だが「恐れずに変化しよう」と訴えた。

なぜロータリーに入会したか、入会してどうだったかを尋ねると、友人をつくりたいとか、人との出会いというのが、一番ではないかと思う。

ではRLIとはどんな組織なのか。ロータリーに関する正しく深い知識、教育的な経験や指導力を養う組織だ。毎週、例会に集う意味を再確認してもらうことを目的にしている。研修スタイルは、1チーム6～8人で一つのテーマについてディスカッションする。メンバーをシャッフルして一日に6回行う。先導役のリーダーが討議を進める。

ガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニ、ガバナー補佐、RC会長・幹事が対象だが、経験が浅い会員でも大歓迎だ。

今年は2回終わり、来年4月1日にパート3を行う。ぜひ気軽に参加してほしい。思ったことをそのまま話してもらってよい。3回終了するとバッジがもらえる。

黄色い花を想像すると人それぞれだ。価値観はそれぞれ違う、バラバラでよい。多様性を受け入れる姿勢が大切だと思う。



平崎君にRCIに入会した動機を尋ねる福村委員長